希学園　第395回　公開テスト　小4　国語　2025年4月13日実施【模範解答】　制限時間40分

1

1 海外
2 汽車
3 人工
4 庭
5 反らして
6 都

2

1 イ
2 エ
3 A う
B ゆ
C す
4 I いつか
II ガッカ（4完答）
5 イ

3

1 X エ
Y イ
Z ア（1完答）
2 全部ない（2完答）
3 ゲーム
4 A 休
B 泳
C 村
D 談
5 やらねばならない
6 ゆとり
7 勉強する（7完答）
8 I 堅苦し

2

6 ことばにしたことで、恋心を寄せている将太くんとふたりだけのひみつを共有していることがはっきりと意識され、うれしくて気持ちがたかぶったから。（6 同意可）
8 II 自分が
III イ

6 （記述題）
7 解約
8 I 1
II 2
III 2

配点

1・2 3・3 4	各2点×13＝26点
2 6	6点
その他	各4点×17＝68点
	〈計〉100点

1

1　「海」の八画めを「母」のように二画に分けないように。
2　「汽」のつくり（右側）を「気」と書かないように。
3　「人工」は人が作ったもののこと。「人口」は一定地域に住む人の数のこと。
4　「延」の部分を「延」などと書き間違えないように。
5　むずかしい字ではないが、訓読みまでしっかり理解しておこう。
6　「住めば都」とは、どんな場所でも住んでみれば居心地がよくなるものだ、という意味。

2

1　直後でマリアは「わたしのこと、きらいなのかな」と心配しているが、その後、将太くんは「女子って、たいてい虫がきらいだろ？　だから、見たくないかと思ってさ」といっていた。登場人物の言動の意図に注意しながら読むくせをつけよう。
2　前書きも重要な情報源である。マリアはその日の「恋のラッキーアイテム」として「マイマイカブリ」という虫を知ったのだ。
3　A：からだの特徴は物語ではしばしばその人の性格と結びつけられる。「まつげが長い」ことは優しさ、心の繊細さを連想させる。すきな子のそんな「意外」な特徴にマリアは見とれているのである。B：虫の動く様子である。C：問題文の条件からAで用いた「う」は入れられない。将太くんは、虫観察の提案を受け入れたマリアを「虫ずき」だと頭から信じたのである。
4　四行後の「けどさ……。」から後に、マリアの複雑な心境が述べられている。「いいけど」という答えが「まずい」というからには、本当はよくないのである。相手を誤解させたままこちらが無理を続けることで、どんなよくないことが起こると考えているか。二つのポイントがあることを読み取れただろうか。
5　傍線Cの一行後に、虫観察のために「公園デートにもさそってもらった」とある。だが、いざ当日、マリアが虫うらないのことをうちあけると、将太くんは「商店街のマドカさん」の話題をもちだし、二人で「マドカさん」のいる商店街に「今から行こうぜ」とさそいかけてくれたのだった。
6　「ドキドキッと胸が鳴る」理由はその時の心情にある。まずは「興奮する」、「うれしい」、「気持ちがたかぶる」など、心情表現のための豊かな語彙（ことばのあつまり）をはぐくもう。その上で、ではなぜそのような気持ちになったか。単に将太くんと話せたということだけならば、もっと以前から「ドキドキ」していたはずである。そうではなくて、「ふたりだけのひみつな」という将太くんのことばに「うん、ひみつ」とマリアも応じたことで、二人が「特別」な関係になったことがあらためて確認されたのであり、このことをはっきりと意識したことで、胸が「ドキドキ」するような気持ちが生まれたのである。
7　本文冒頭では「学校から帰ったら、虫うらないを解約しよう」と思っていたマリアだが、紆余曲折を経つつ「虫うらない」のおかげで最終的には将太くんと今までよりも仲よくなることができた。そのために「虫うらない」に感謝し、「やっぱりこれからも毎日、虫うらないメールを受け取ろう」と考えをあらためたのである。
8　I：前書きにあるように、マリアは将太くんに話しかけるチャンスをうかがっていたが、「虫うらない」をきっかけに虫ずきでうらないずきの将太くんと話ができるようになった。II：「デート」は二人ででかけることを指しているのであって、マリアは本文中で将太くんに恋心をうちあけてはいない。III：「虫うらないメール」を受け取るようになったことは、必ずしも虫がすきになったことを意味してはいない。

3

1　X：夜を徹して宿題に取り組み、最終的に朝までかかったのである。「結局」とは「最終的に」、「とどのつまり」という意味。Y：長男の取り組みをいいかえてまとめている。Z：渋滞に巻き込まれたときの対処法として、宮澤賢治作品の朗読テープを聴かせたことと、計算競争で遊んだことが並列されている。
2　嫌いな漢字ドリルにどう対処するか、という文脈。「決意」ということばが本文でふたたび使われていたことに気づけたか。
3　指示語の問題は直前を見れば解決する場合も多いが、必ず指示語をふくむ一文には目を通すようにしよう。今回であれば、「これは……成果だ」という主語と述語の関係を確認する。そうしてから「では、なにが成果なのか」と直前をさかのぼろう。
4　特にコツらしいものはないが、あまり使われないつくりに注目すると解決の糸口をつかみやすい。それぞれ、A：休・使・住、B：泳・池・油、C：村・林・横、D：談・調・計、となる。
5　同じ文脈の中で、直後に「言われたとおりにやっていると」とある。「やらねばならない」ことを「やっている」のである。
6　「本文中のここよりあとから」、「ひらがな三字で」という条件に従いつつ、「精神」の話をしているという点や、さらに「精神が固く」なって「なくなって」くるものであるという点など、周辺の文脈をふまえてふさわしい表現をさがしていこう。
7　「何を」、「どうする」という二つのポイントをおさえた表現をさがす。これまでずっと「勉強」をいかに退屈せずにこなしてゆくか、という話題が続いていたので、「何を」の部分は比較的わかりやすいだろう。
8　I：論説的文章では、筆者がこだわっていることばがどういう意味で用いられているか、すなわちことばの定義に注意して読み進めたい。「……とは」、「……という」など、ことばの意味をはっきり示そうとする表現に注目できただろうか。II：「そういうことを日々練習することによって、ユーモアが身につくわけです」とあるので、「そういうこと」の内容が明らかになるところまでさかのぼればよい。III：IIをふまえ、「義務的な学習」を「少しでも面白いもの」に変えているものと、あくまで真面目に取り組んでいるものを区別しよう。「ユーモア」というのは単に面白おかしいということではなく、「ストレスの原因となるものをサラっとかわす」方法のことであるから、だじゃれを「ひとつひとつ覚え」る真面目さとは関係がない。

以　上